

2017年7月28日

報道関係各位

カルチュア・エンタテインメント株式会社
株式会社 TSUTAYA

映像業界のプロから、映画ファンの大学生まで、熱い企画が集結
「TSUTAYA CREATORS' PROGRAM FILM 2017」
1次審査結果発表！

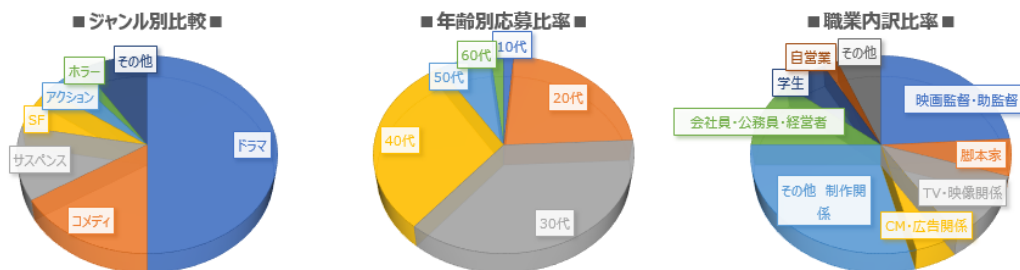
～企画の映像化支援に、ポストプロダクション・株式会社IMAGICAの協賛も決定～

CCCグループで、映像・出版・音楽の企画製作等のエンタテインメント事業を展開するカルチュア・エンタテインメント株式会社（以下、C・E）と、全国にTSUTAYAを展開する株式会社TSUTAYA（以下、TSUTAYA）が主催する、映像クリエイターと作品企画の発掘プログラム「TSUTAYA CREATORS' PROGRAM（以下、TCP）」は、第3回目の応募を6月13日に締め切り、約1ヶ月半に及ぶ審査を経て、1次通過者を決定しましたので、お知らせいたします。

TSUTAYA CREATORS' PROGRAM FILM 2017 : <http://top.tsite.jp/special/tcp/>

※ 1次通過者の詳細情報は上記サイトをご参照下さい。

今回、応募総数268企画の中からTSUTAYAやC・Eのスタッフ約100名による厳正な審査の結果、18名が1次審査を通過することになりました。また、昨年に続きndjc（※1）と連携し2016年度の選出監督の中から2名が参加し、合計20名が2次審査へ進むことになりました。今年は、前年よりも女性の応募者が増え、ドラマをはじめ例年以上に様々なジャンルの企画が数多く寄せられました。また、応募者の年齢としては30代が最も多く、ついで40代、20代となり、映画を楽しむ機会の多い層からの応募が集まりました。応募企画には、アマチュアの大学生によるフレッシュなテーマのものや、映像業界に携わるプロ目線の緻密に構成された企画など、幅広い方の熱い想いが寄せられました。



■ 今年の作品の傾向について（TCPプロデューサー 遠山大輔）

3回目を迎えるTCP、今年も数多くのご応募をいただきました。

毎年世相を反映するテーマが多く寄せられますが、今年多かったのは、「家族」をテーマにした企画です。

情報過多な時代で、もっとも身近なコミュニティを取り上げたいと考えた方が多かったようです。そこにエンタテインメント性を加えた企画が評価を集めました。他にも「記憶転移」や「AI（人工知能）」を取り上げたものも目立ちました。

2次審査では作品にかける熱い想いを直に聞けるのが楽しみです。

さらに、1935年の創業以来、長きにわたり映像ビジネスに携わり、多くの日本の良質な映像コンテンツに触れてきた株式会社IMAGICA（以下、IMAGICA）が、TCP2017の主旨へ賛同し、協賛いただくことになりました。この協賛はTCPが発掘したクリエイターの才能に共感いただいたことで実現し、受賞作品に対し今まで以上に積極的にご協力いただくことで、共に新たな才能を輩出できるように支援していただくものです。IMAGICAの技術とテクノロジーにより、TCPの受賞作品がより魅力的なものになることにも期待しています。

TCPは今後も映画産業を支えてきた技術を有する企業や人材との協業も視野に入れつつ、良質な作品を創出することで、映画産業の発展に貢献してまいります。

（※1）ndjc（New Directions In Japanese Cinema）とは、映像文化産業発展のために活動するNPO法人 映像産業振興機構（VIPO）が文化庁より委託を受けて運営・実施する若手映画作家育成プロジェクト

NEWS RELEASE

■ TSUTAYA CREATORS' PROGRAMとは



プロ・アマ問わず映像化可能な企画を募り、映像を創り出すクリエイターを発掘し、製作からレンタル・販売・配信までを総合的に支援するプログラムです。「名作のタネ」を業界各社と協力しながらサポートしていくことで、新しい才能が輩出される環境や、新たなクリエイターとの出会いを創出し、映像企画とお客様の架け橋となることを目指しています。受賞作には5,000万円以上の総製作費と制作体制をバックアップし、完成した作品は全国のTSUTAYA店舗やTSUTAYA DISCAS、TSUTAYA TVなどでオリジナル作品としてレンタル・販売や配信をいたします。

公式サイト：<http://top.tsite.jp/special/tcp/>
公式Facebook：<https://www.facebook.com/TCPFILM/>
公式Twitter：https://twitter.com/TCP_staff

■ TSUTAYA CREATORS' PROGRAM FILM 2017 概要

募集期間：2017年4月20日（木）～ 2017年6月13日（火）※募集は終了しています

募集内容：実写映像化（長編）可能な作品企画の募集

対象：プロ・アマ、年齢、性別、国籍の制限なし

受賞作品数：3作品を選定 作品完成のための総製作費・制作体制をCCCグループがバックアップ

副賞としてTポイント最大30万ポイントとTSUTAYA DISCAS1年間無料権を進呈

製作費予算：1作品あたり5,000万円以上×3作品

■ 1次審査通過企画

※応募者名50音順 ※敬称略

▽『ミステリー・パッセンジャー（仮）』天野 千尋（映像制作）

<企画のテーマ>

人は、常に「正しい」行動がとれる訳ではない。
理性と欲求の間で葛藤し、結局「正しさ」を捨ててしまうことも多々ある。
だが、そんな姿こそ人間らしく、魅力的である。

▽『モータープール（仮）』ウエダアツシ（映像制作）

<企画のテーマ>

大阪では月極め駐車場のことを「モータープール」と呼ぶ。そこの利用者は車も人生も十人十色。同じ駐車場というだけで普段交わらない境遇の人々がバッタリ出会い、それぞれの人生がちょっぴり変わっていく群像劇。

▽『指に輪っか（仮）』上田 迅（会社員）

<企画のテーマ>

「父からの愛、そして父としての愛」
子供が生まれる。どのように接すればいいのだろう。どのように愛したらいいのだろう。父親になるとは、どういうことなのだろう。僕の父は、どうやって父親になったのだろう。

▽『インサイドフィッシュ（仮）』大井 駿（映像監督）

<企画のテーマ>

人間、誰しものが持っている「思い込み」
思い込む事で人間は何者にもなれる。そう、善にも悪にも。
今回は人間の悪に焦点をあて、「深く思い込む事の怖さ」がテーマです。

▽『火葬場の女（仮）』岡田 茂（演出/脚本家/ディレクター）

<企画のテーマ>

両親の事故死をトラウマに抱き続け生きてきた天涯孤独の愚直な女。その無味乾燥だった人生に訪れた人生最大のターニングポイント。それは転落への序曲か待ち望んだ転機か？火葬炉の炎の中に見つけた「人生の選択」。

NEWS RELEASE

▽『ザ・ドールハウス・ファミリー (仮)』片岡 翔 (映画監督/脚本家/小説家)

<企画のテーマ>

「生きている」とはどういうことか。
死んだ家族の脳を人形やぬいぐるみに移植すると、どうなるのか。
これはそんな好奇心から生まれた企画です。

▽『My Heart (仮)』金田 萌 (大学生)

<企画のテーマ>

個人のもつ価値観や感情は日々変化するため、愛し方、愛され方に答えはない。
絶対に変わらないと信じていた愛も、ある日突然変わってしまうかもしれない。そんな生きるすべての人が関わる「愛の形」に正解はあるのかを問いかける。

▽『白鳥と赤い風船 (仮)』熊谷 まどか (映画監督)

<企画のテーマ>

「人は皆、世界と、誰かと繋がっている」
自分のささやかな行動が、渡り鳥のように飛んでいき、思いがけず遠くの誰かの支えになっていた。その事が今、自分に力をくれる。人は、世界は、繋がってできている。

▽『大空とん吉とん平漫才台本 (仮)』清水 孝之 (映像ディレクター/広告プランナー)

<企画のテーマ>

漫才を通して、クリエイターが他人のアイデアを「パクる」ことの罪の大きさと、その償いの先に生まれるオリジナルへの深い敬意を描く。

▽『栄光のB級エスパース (仮)』たかせしゅうほう (監督/脚本家)

<企画のテーマ>

22年前のテレビ番組『世界びっくりショー』に出ていた5人の「超能力者」の今を調べる女子大生の物語。

▽『Oz (オズ) (仮)』竹林 亮 (CMディレクター)

<企画のテーマ>

AI(人工知能)です。我々は如何にAIと向き合うのか? 正に今、差し迫ったこの命題を、AI映画監督『Oz(オズ)』と一緒に映画を作ることになった人々に焦点を当て、鋭く決りながら可笑しく描き切りたい。

▽『イカメッシー (仮)』田中 智章 (監督/脚本家)

<企画のテーマ>

「ひきこもり」は部屋にこもるが、現代に生きる我々もみな、
会社や家族など集団としての「カラ」に依存する「ひきこもり」ではないか?
その固いカラを、傷だらけになりながらも破ってみせる者の姿を痛快に描きたい。

▽『水上のフライト (仮)』土橋 章宏 (自営業)

<企画のテーマ>

パラリンピックカヌーを題材とし、「障害はハンデではなく個性だ」というテーマを、実在の女子選手をモデルとした挫折と復活の物語の中で描く、感動ポルノではないヒューマンストーリーです。

▽『ダブルスタンダード 教室とステージ (仮)』中野 森 (映画監督/CMディレクター)

<企画のテーマ>

人は皆、複数の立場や肩書きを持って生きている。
この物語は、「教師なのにアイドルファン」「アイドルなのにいじめられっ子」という二面性を持つ二人が、お互いに隠してきた場所で出会うことにより生まれる、気まずい心の交流を描く。

▽『リトル・ヒーローズ (仮)』中村 公彦 (映像ディレクター/脚本家)

<企画のテーマ>

東北に住むローカルヒーローが好きな少年たちが、震災により失われたヒーローショーを復活させるまでの成長の日々を、ファンタジー要素を交え、地域の復興の姿と重ね合わせながら描く作品です。

NEWS RELEASE

▽『2/1イチブンノニ (仮)』針生 悠伺 (映像ディレクター)

<企画のテーマ>

テーマは「父から息子への無償の愛と責任」。

子供に無関心だった父親が、心臓移植が必要となった息子を救うために、そのドナーとなる息子のクローンを育てる中で、父としての愛情と責任を取り戻していく物語です。

▽『たとえ嘘でも、突き抜ける! (仮)』藤澤 浩和 (監督/脚本家)

<企画のテーマ>

嘘で飾った自分に好意を抱く、理想ドンピシャの女性が現れた為、後付けで努力を重ねて嘘を本当にしていく男の奮闘記。入口が間違っていようと、強烈な情熱や努力の体験は、人を成長させる事を描くコメディ。

▽『初恋 (仮)』目黒 啓太 (映像制作)

<企画のテーマ>

人間に混じって中学校に通うロボット(AI)の少年が、転校生の少女に恋をした。

その愛は、本物なのか?

AIの愛と人間の愛に、本当は隔たりなどないのではないのか?

なぜ我々は、「心」や「愛」に翻弄されるのか?

▽『カオルという女 (仮)』湯浅 典子 (監督)

<企画のテーマ>

『人が死ぬということ。人を送るということ』が今作の超直球なテーマです。人生において普遍的に、善人、悪人問わず誰しもに波及するこのテーマを、最大級の皮肉と愛を込めて葬儀を舞台に重喜劇として描き切りたいです。

▽『あれかしと祈る』(仮) 吉野 主 (映像ディレクター/助監督)

<企画のテーマ>

極限まで追い詰められた時に人間が成長する姿は、目も当てられないほど悲哀に満ちていて、そんな人から生み出される“希望的観測”は胸に突き刺さる辛辣なドラマ性を秘めている。

■ TSUTAYA CREATORS' PROGRAM 受賞作品について

<FILM 2015> ※敬称略

▽グランプリ受賞:『嘘を愛する女』/中江和仁

監督: 中江和仁

脚本: 中江和仁・近藤希実

出演: 長澤まさみ・高橋一生・吉田鋼太郎

製作: 「嘘を愛する女」製作委員会

製作プロダクション: ROBOT

コピーライト: ©2018 「嘘を愛する女」製作委員会

公開: 2018年全国東宝系公開予定



▽準グランプリ受賞: 「ルームロンダリング」/片桐健滋、梅本竜矢 (共同企画)

▽準グランプリ受賞: 「裏アカ」/加藤卓哉

<FILM 2016>

▽グランプリ受賞: 「哀愁しんでれら (仮)」/渡部亮平

▽準グランプリ受賞: 「ゴーストマスターズ (仮)」/ヤングポール

▽準グランプリ受賞: 「ファインディング・ダディー (仮)」/金井純一

▽審査員特別賞受賞: 「ブルーアワー (仮)」/箱田優子